

<対象>小学校高学年以上

<ねらい>

- ・一日のスケジュールを通して家事使用人として働く少女の生活について想像し、関心を持つ。
- ・自分との生活の違いから、少女たちの置かれている状況を知り、奪われている権利について考える。

<すすめ方>

- ① 「わたし・ぼくの日」(a) を配布し、各自自分のある一日をシートに記入する。
- ② 「サビハちゃんの日」(b) を配布する。
- ③ グループでサビハちゃんの日を簡潔に色分けしてシートに記入する。
- ④ サビハちゃんと自分たちの生活を比較し、以下についてグループで話し合う。
 - ・自分の生活にあって、サビハちゃんの生活にないこと
 - ・サビハちゃんの生活にあって、自分の生活にないこと
 - ・サビハちゃんにとって必要なこと
 - ・気がついたこと、考えたこと、疑問に思ったこと
- ⑤ 各グループで話し合ったことを発表する。
- ⑥ サビハちゃんは家事使用人として働いていることを説明する(第1~6章参照)。
- ⑦ 子どもの権利カード(下記リンク先の日本ユニセフ協会WEBサイトで入手可能)
URL : https://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryu/si_bod.htm
を各グループに配布し、少女たちがどの権利を奪われてしまっているのかを考える。

POINT!

1. ⑥でサビハちゃんについて説明をするとき、以下のポイントを説明すると理解しやすくなります。
 - *なぜ朝食が二回あるのか。
 - 使用人は雇用主とは別に食事をとります。また、バングラデシュでは日本より夕飯を取る時間が遅い文化のため、子どものサビハちゃんが夕飯をとれるのはとても遅い時間になってしまいます。
 - *「子どもを学校へ迎えに行く」の「子ども」って誰だろう。
 - 家事使用人の仕事の一つに雇い主の子どものお世話があります。あまり年齢の変わらない子どものお世話をするこもよくあります。
2. 議論が進まないときは以下のような投げかけをし、それらがサビハちゃんにどのような影響を与えるか考えてみると、議論が深まります。
 - *サビハちゃんが家の外にいる時間はどのくらいあるか。
 - 家事使用人として働く少女たちが密室で働いていることに気が付く。
 - *家族と会える時間はどのくらいか。また1日の中で接している人の数は何人か。
 - 生活の中で限られた人との接点しかないことに気が付く。

書籍名：わたし8歳、職業、家事使用人。(合同出版)
著者：日下部尚徳(著) 藤崎文子・京井杏奈・藤岡恵美子(執筆協力)

バングラデシュには、「家事使用人」と呼ばれる子どもが42万人います。よその家に住み込み、雇い主やその子どもたちのお世話をします。他人の家の家事をする多くの子が10代の少女たちです。中にはまだ10歳に満たない女の子もいます。世界にいる1億5200万人の児童労働者のうち、家事使用人として働かなければならない女の子のきびしい現実、直面する問題や課題、私たちに今なにかができるのかを紹介します。



特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会

お問い合わせ先

〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1
TEL: 03-3202-7863 / FAX: 03-3202-4593
MAIL: event@shaplaneer.org